

◎地球温暖化対策計画書 自己評価チェックシート（業務部門）

ID:	←都がID番号（6桁）を記入します。	平成 年 月 日
事業所名		対策を見直した場合や理由書を見直した場合は記入して下さい。
事業者名		

ア 基本対策に関する事項（評価基準：一次評価）

「A」評価の確認

説明：①下記の基本対策（重点12項目）ほかの対策について「確認内容」を確認して下さい。「確認内容」を満たしていない場合は、対策を「①計画書へ計上」するか、実施できない場合は、「②個別事情有」として、その理由書等を提出して下さい。

②表中の《確認内容》の機器容量や稼働時間は目安である。機器等の諸条件は、下記の例に示すように対策の効果に着目して対応して下さい。

（例）INV導入効果：稼働時間6,000時間の容量5.5kWのポンプ⇔稼働時間3,000時間の容量11kWのポンプ ⇒この場合、5.5kWの対策も検討する。

No.	確認項目	確認内容	自己評価結果	備考
空1	【運用対策】 燃焼設備の空気比管理 区分番号：120101	<p>■ボイラー及びガス焚冷温水発生機などの燃焼設備の空気比を確認し、省エネ法の基準空気比以上の場合は、削減対策を計上する。ほとんどのケースが、基準空気比は、1.3以下である。</p> <p>《確認方法》 ⇒最近のボイラー等の点検記録を確認し、空気比を算定する。基準空気比より高い場合は、計画書へ削減対策として計上する。空気比は酸素濃度から計算できる。</p>	<input type="checkbox"/> 燃焼設備無し <input type="checkbox"/> 燃焼設備有り <input type="checkbox"/> 既実施済(基準空気比以下) <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	低空気比で運転すると、ばいじんを発生する場合は、この限りでない。なお、この場合は、メーカー等の見解書など個別事情の理由書を提出。
空2	【運用対策】 冷凍機等の出口温度管理 区分番号：120202	<p>■冷凍機及び冷温水発生機などの熱源機器において、夏季の冷房シーズンの軽負荷時に、冷水出口温度を緩和し、熱源機器の入力を軽減させる。一般的には、冷凍機の出口温度を7℃で設定しているが、軽負荷時に9℃に緩和する対策がある。</p> <p>《注意点》 ⇒蓄熱槽がある場合など熱搬送システムによっては、対策が不要な場合がある。この場合は、②個別事情有-A.理由書を添付すること。</p>	<input type="checkbox"/> 熱源機器無し <input type="checkbox"/> 熱源機器有り <input type="checkbox"/> 既実施済 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	冷房シーズンを通して、冷凍機等の出口温度が7℃で運転している場合は、その必要性について理由書を提出。
空3	【運用対策】 室温の適正管理 区分番号：130101	<p>■室内の温度管理（夏季の冷房期）が、下記の温度の範囲内であることを確認する。なお、特殊な用途（研究室、治療室、サーバ室、食料品売り場等）で使用している部屋は除くことができる。</p> <p>○一般事務室（会議室等） 26.5℃以上 ○来客者スペース（商業、ホテル、展示場など） 26.0℃以上 ○官公庁 28.0℃以上</p> <p>《確認方法》 設定温度ではなく実際の温度を確認！ ⇒最近の夏季の空気環境測定結果（外気温度が28℃以上の場合）により、在室者の場所の室内温度を確認する。</p>	<input type="checkbox"/> 指定範囲内(特殊な用途も含む) <input type="checkbox"/> 指定範囲外 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	暖房設定温度は、ビルの機密性などにより、低く設定（20℃程度）すると、「冷房運転」となる場合があるので注意する。冬季にペリメータゾーンが必要以上に暖かくなっている場合があるので注意する。在室者がいない（準備中など）時間の運転の適正化についても考慮する。
空4	【運用対策】 外気導入量の適正管理 区分番号：130102 (130201)	<p>■夏季のCO2濃度が、在室人数が多い部屋を中心に、800ppm以上であることを確認する。なお、中間季は外気取入を行うため、CO2濃度は低くなる。</p> <p>対策の目安：CO2濃度が、850ppm程度以上を目指して調整する。</p> <p>《確認方法》 ⇒最近の夏季の空気環境測定結果（外気温度が28℃以上の場合）により、在室人数とCO2濃度を確認する。在室人数が少ない場合を除き、多くの部屋でCO2濃度が750ppm以下の場合は、計画書へ削減対策として計上。</p>	<input type="checkbox"/> 指定範囲内 <input type="checkbox"/> 指定範囲外 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	リターン（RA）が無いなど設備の制約やオールフレッシュが必要（病棟等）な場合は、その旨を個別事情として理由書を提出。中間季の外気取り入れは外気冷房になる。冬季の外気冷房は湿度管理に注意。
空5	【設備導入等対策】 循環ポンプ等の回転数制御導入 区分番号：120401 120501 130105	<p>■熱搬送設備（冷却水ポンプ、冷温水ポンプ、空調機ファン等）であって、流量がバルブやダンパー等で制限されている場合に、インバータ装置の導入を行う。</p> <p>《確認方法》 ⇒電気容量が概ね11kW以上のポンプ、ファンであって、年間稼働時間が2～3,000時間以上あるものが対象。</p>	<input type="checkbox"/> 対象設備無し <input type="checkbox"/> 対象設備有り <input type="checkbox"/> 既実施済 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	個別空調方式の場合は、「対象設備無し」をチェックする。
空6	【設備導入等対策】 蒸気バルブ等の断熱強化 区分番号：120701	<p>■蒸気バルブ等による放熱を抑制するために、保温を行う。保温されていない蒸気バルブ等がある場合に対象。</p> <p>《確認目安》 ⇒蒸気バルブサイズ：（100A）が数個以上の場合であって、年間蒸気利用時間が2～3,000時間以上あるものが対象</p>	<input type="checkbox"/> 対象設備無し <input type="checkbox"/> 対象設備有り <input type="checkbox"/> 既実施済 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	
空7	【設備導入等対策】 動力伝達媒体による損失軽減 区分番号：130105	<p>■空調機及び換気設備のファンベルトを、省エネ型に取替えを行う。</p> <p>《確認方法》 ⇒空調機及び換気設備のファンで、5.5kW程度のファンが概ね10台以上あり、年間3,000時間稼働している場合が対象 プーリー径やプーリー比により効果が大きく変わる。メーカーの仕様に従いテンションに十分注意する。</p>	<input type="checkbox"/> 対象設備無し <input type="checkbox"/> 対象設備有り <input type="checkbox"/> 既実施済 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	プーリーサイズやプーリー比によって効果が出ない場合もあるので注意。テンションが適切でないと、破断したり増エネになるので注意。
空8	【設備導入等対策】 外気導入システムの導入 区分番号：130106	<p>■空-4：外気導入量の適正管理を、設備システムで対応する場合に該当。</p> <p>《ポイント》 ⇒外気導入量の適正管理を実施している場合は、「既実施済」にチェックする。</p>	<input type="checkbox"/> 該当無し <input type="checkbox"/> 該当有り <input type="checkbox"/> 既実施済(手動制御含む。) <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	既存設備の部分改修等の簡易な設備投資であり、投資回収効果が3年程度である場合
空9	【設備導入等対策】 駐車場CO2等濃度制御システムの導入 区分番号：130304	<p>■大規模な屋内駐車場があり、送排気ファンがある場合に該当。具体的には、給排気ファンの電気容量の合計が、11kW以上ある場合。</p> <p>《ポイント》 ⇒給排気ファンを駐車利用実態に応じて運転管理（タイマーによる間欠運転等）している場合は、「既実施済」にチェックする。</p>	<input type="checkbox"/> 対象設備無し <input type="checkbox"/> 対象設備有り <input type="checkbox"/> 既実施済 <input type="checkbox"/> ①計画書へ計上 <input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有 / <input type="checkbox"/> B.理由書無 <input type="checkbox"/> ③対策未計上	

※「計画書へ計上」に関しては、目標対策として計上した場合も同様にチェックする。

(つづく)

No.	確認項目	確認内容	自己評価結果	備考
-----	------	------	--------	----

<p>照1</p> <p>【運用対策】 適正な照度管理</p> <p>区分番号：150204</p>	<p>■照明の不要な部屋、時間を管理し、適正に照明の消灯を行っている。また、昼休みの一斉消灯や残業時間の部分点灯などの自己啓発も合わせて検討している。</p> <p>《ポイント》 ⇒無駄な照明の点灯が無ければ、「適正に管理」をチェックする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 適正に管理</p> <p><input type="checkbox"/> 部分的に対策余地有</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	
<p>照2</p> <p>【設備導入等対策】 蛍光灯インバータ安定器の更新</p> <p>区分番号：150201</p>	<p>■蛍光灯に従来型（銅鉄型）安定器を使用している場合に、インバータ安定器（電子式安定器）への更新を行う。なお、対象となる蛍光灯は、年間点灯時間が概ね2～3,000時間以上である。</p> <p>《ポイント》 ⇒基本対策で求めているのは、安定器の更新であって、照明器具を更新する場合は、目標対策として計上ができる。また、蛍光灯ランプ（Hiランプ）も含めた更新も目標対策とすることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 対象設備無し</p> <p><input type="checkbox"/> 対象設備有り</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	
<p>照3</p> <p>【設備導入等対策】 高効率ランプの更新</p> <p>区分番号：150201</p>	<p>■一般照明用として、白熱電球やハロゲン電球、水銀灯などを使用している場合に、電球型蛍光灯など高効率電球への更新を行う。</p> <p>《注意点》 ⇒非常照明や調光用の白熱電球などは、更新できないため注意すること。照明器具（ソケット等）ごと更新する場合は目標対策とすることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 対象設備無し</p> <p><input type="checkbox"/> 対象設備有り</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	
<p>その他①</p> <p>その他の基本対策</p>	<p>■上記以外の基本対策に関する選定状況 <具体的な基本対策の名称></p> <p>《ポイント》 ⇒都から指示された基本対策は、必ず本欄に記載すること。</p>	<p><input type="checkbox"/> 該当無し</p> <p><input type="checkbox"/> 該当有り</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	
<p>その他②</p> <p>その他の基本対策</p>	<p>■上記以外の基本対策に関する選定状況 <具体的な基本対策の名称></p> <p>《ポイント》 ⇒都から指示された基本対策は、必ず本欄に記載すること。</p>	<p><input type="checkbox"/> 該当無し</p> <p><input type="checkbox"/> 該当有り</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	
<p>その他③</p> <p>その他の基本対策</p>	<p>■上記以外の基本対策に関する選定状況 <具体的な基本対策の名称></p> <p>《ポイント》 ⇒都から指示された基本対策は、必ず本欄に記載すること。</p>	<p><input type="checkbox"/> 該当無し</p> <p><input type="checkbox"/> 該当有り</p> <p><input type="checkbox"/> 既の実施済</p> <p><input type="checkbox"/> ①計画書へ計上</p> <p><input type="checkbox"/> ②個別事情有 → <input type="checkbox"/> A.理由書有</p> <p><input type="checkbox"/> ③対策未計上 → <input type="checkbox"/> B.理由書無</p>	

イ 目標対策に関する事項（評価基準：最終評価案）

「A+」「AA」評価の確認

説明：「ア 基本対策に関する事項」で一次評価をクリアしている場合に、目標対策の選定状況について自己評価を行う。

確認項目	確認内容	自己評価結果	備考
<p>目標対策の設定状況 (適正に目標対策を選定し、その根拠資料等の添付があるかを確認する。)</p>	<p>■様式（その5及びその6）に計上した目標対策の削減量の根拠資料を添付する。なお、様式（その6）には基準年度（H15～H17年度）に完了した目標対策に相当する対策しか計上できない。また、基本対策（設備導入等対策）を目標対策に変更する場合は、投資回収年数の算定根拠を提出する。</p> <p>(様式その5) ①目標削減率</p> <p>(様式その6) ②基準年度中に完了した目標対策に相当する対策の合計（削減率）</p> <p>目標削減率の合計〔①+②〕</p>	<p><input type="checkbox"/> 根拠資料が添付有</p> <p><input type="checkbox"/> 不足 → <input type="checkbox"/> 後日提出予定 <input type="checkbox"/> 提出予定無し</p> <p><input type="checkbox"/> % (添付資料が不足しているものを除く)</p> <p><input type="checkbox"/> % (添付資料が不足しているものを除く)</p> <p><input type="checkbox"/> %</p>	<p>根拠資料が不足している目標対策の削減効果は、評価の対象外となる。</p> <p>根拠資料が不足している削減効果は、削減率の計算から除く。対策の算定が終了していない場合は未記入でも可。</p>

ウ 自己評価結果

<p>【最終評価結果】</p>
<p>《評価判定基準》一次評価で「A」評価となった場合</p>
<p>「A」 : 目標対策の削減率が2%未満</p>
<p>「A+」 : 目標対策の削減率が2%以上5%未満</p>
<p>「AA」 : 目標対策の削減率が5%以上</p>



12月末までに提出された計画書は、2月末までに都にて内容を確認のうえ、評価を通知します。都が行った評価に問題が無ければ、通知後概ね30日後に、計画書及び評価（A評価以上の評価）を都が公表します。その際、この自己評価チェックシートを参考にします。

都記入欄